

連載
第7回

教師としての視野を広げる! 世界の日本人学校 マンスリーレポート

グローバルな現代社会。教室には、海外につながる子供たちも少なくありません!
教師としての国際感覚を磨くため、海外の日本人学校のようすを毎月レポートします。

在外教育施設について

海外で日本の教育を受けることのできる教育施設で、「日本人学校」「補習授業校」等があります。現在、保護者の勤務の都合等で海外に滞在している日本の子どもたちは約8万3000人。このうち、約4万1000人が在外教育施設で学んでいます。

上海日本人学校 虹橋校

伊藤 清香(いとうさやか)

平成29年度～現在学校採用教員として勤務。
音楽専科を担当。副担任で、T2として学習支援も行っている。



1 赴任したきっかけを教えてください

学生時代から在外教育施設の存在は知っていました。海外に住む日本人の子どもたちに、音楽を通して日本の文化を伝えたいという思いから、学生時代に受験しました。そのときは採用に至らなかったのですが、この思いはふくらみ続けました。卒業後、私は発展途上で現地の子どもたちに音楽を教えていました。さらに補習授業校でも勤務し、国語と算数を教える経験もすることができました。

海外に住み、外国人の友人がたくさんでき、友人との関わりの中で「海外にいるからこそ自国の文化を理解し、正しく発信していかなければならないこと」の大切さを強く実感しました。それを子供たちに伝えるため、もう一度チャレンジすることを決めました。財団の第一期募集に応募し、上海日本人学校虹橋校へ採用され赴任しました。



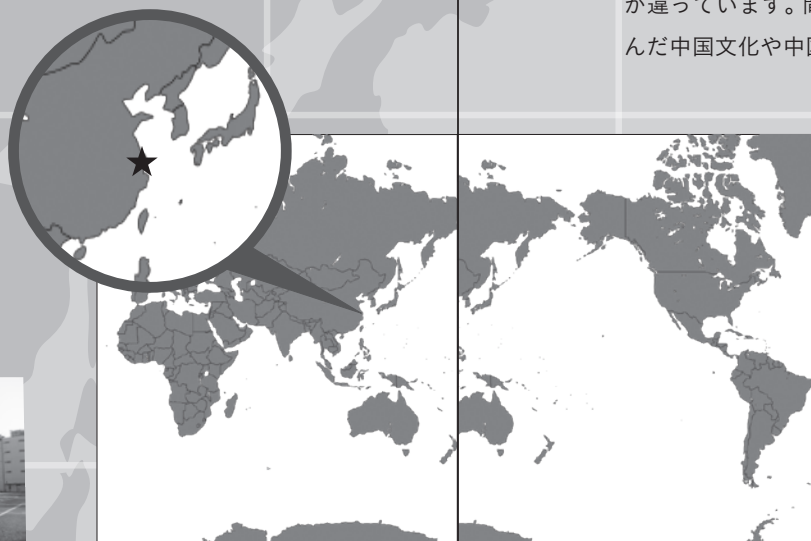
2つの校舎とグラウンド

2 学校の概要を教えてください

世界有数の国際都市である上海には、日本人学校が虹橋校、浦東校、高等部と3校あります。私の勤務する虹橋校は小学部のみで1100名を超える児童が在籍しています。ほとんどの児童はバス通学をしており、朝7時半からそれぞれ37台のバスで登校してきます。私たちはピロティで子どもたちを迎えることから1日がスタートします。校舎は2つあります。普通教室に加え、音楽室、理科室、パソコン室、イングリッシュルームなどの特別教室で学習をします。さらに室内温水プールもあり、1年を通してプールに入ることができます。休み時間には、蔵書が3万冊を超える図書室や、200mのタータントラックのある天然芝のグラウンドで、のびのびと過ごしています。



ハイタッチでさようなら!



海外で働く 学校採用教員Q&A

- Q15 求められる人材は?
- A15 児童・生徒に愛情を持ち、教育に情熱と使命感を持っている方、海外子女教育に対する理解と熱意がある方、明るく、心身ともに健康で、厳しい環境の海外生活に耐えられる方、協調性や柔軟性のある方が求められています。
- Q16 面接ではどのようなことを聞かれますか?
- A16 元学校採用教員に尋ねると、応募書類、志望動機書の内容から、ケーススタディ等、学校や面接官によって様々なことを聞かれるようです。また、教員採用試験の面接のようだったと仰る方が多いです。

3 この国の学校ならではの!という特徴は何ですか?

中国にある本校ならではの取組がたくさんあります。例えば、運動会の表現運動ではカンフーを取り入れたり、「今月の歌」では中国語の歌をうたったりしています。その他にも週に1回の中国語の授業、現地校との交流、中国文化を観賞・体験するチャレンジタイムがあります。なかでもチャレンジタイムは、毎年子どもも私たち大人も大感激の行事です。ゲストとして一流の方をお招きし、中国文化を見て体験し、学ぶことができます。1年生は変面・影絵、6年生は京劇というように、学年ごとに演目が変わっています。間近で見ることができるため、とても迫力があります。また、総合的な学習の時間では、学んだ中国文化や中国語を生かして現地校と交流し、現地理解教育に力を入れているのが大きな特徴です。



京劇役者を招いての6年生チャレンジタイム

4 学校で勤務した感想を教えてください

子どもたちとの出会いは体育館での着任式。1000名を超える子どもたちのあいさつと歌声に圧倒されました。そして驚いたことは行事の規模が大きいこと。運動会や学習発表会など学年・学校全体で取り組む行事は迫力があります。学習発表会での合唱や合奏など、大人数だからこそできることに取り組めるのが嬉しいです。私が担当している音楽は専科教員が各学年に1人、計6人もいます。互いに音楽の授業を自由に参観したり、授業内容や指導方法などを相談し合ったりと、とても勉強になります。大規模校だからこそ自分を向上させる手段がたくさんあり、そういう環境で毎日楽しく働けることが幸せです。



6年生学習発表会での合奏

5 教え子が帰国したとき、日本の先生方に伝えたい伝達事項は何ですか?

海外で学んできたこと、経験してきたこと、感じたことを発信できる場をぜひつっていただきたいです。海外生活を送る子どもたちは、現地での生活や様々な文化を理解しようとし、日本ではできないような経験もたくさんしながら生活しています。6年生の学習発表会では「日本と中国、日本と世界を結ぶ架け橋になりたい」という想いを発表した児童がいました。架け橋となる第一歩として、自分の経験を発信することを大切にしてほしいと思っています。周りの子どもたちにとっても、生の声を聞けることは、教科書以外から学べる貴重な機会になるのではないでしょうか。グローバル教育が進む中で、海外での生活経験がある子どもたちは重要な役割を担うと思います。学級ですぐなじむことができるようにするためにも、帰国した子どもを大いに生かしていただけたらと思います。



全校行事「人絵チャレンジ」

海外子女教育振興財団

海外子女教育振興財団 (Japan Overseas Educational Services=JOES) は、1971年に外務省及び文部省(現文部科学省)の共管の財団法人として設立され、2011年には内閣府の認可を受け公益財団法人となりました。設立以来、海外子女・帰国子女教育の振興を図るため幅広い事業を実施しており、学校採用教員の雇用支援もその一環として行っています。

日本人学校等学校採用教員雇用支援、「学校採用教員レポート」などについて、詳しくはこちらから<http://www.joes.or.jp>

